

今回は、「ジェネリック医薬品ってよく聞くけど、いったい何？」という疑問に、高知大学付属病院の宮村充彦先生が答えてくださいます。

【テーマ】

ジェネリック医薬品について

ジェネリック医薬品とは後発医薬品のことです。マスコミ、あるいは病院・薬局などで耳にされることも多いと思います。ジェネリックという言葉には、一般的な、共通などという意味があり、「共通した成分で後から発売された安価な医薬品」を指します。決して新しい薬ではなく、むしろ古い薬です。

さて、後発医薬品と対比する先発医薬品は、製薬メーカーが、新しい薬として開発し、ヒトに対する有効性や安全性を十分に確認する臨床試験を経て、国に承認された医薬品です。日本は国民皆保険ですので、医療用医薬品の値段は国が決めた「薬価」として定められます。先発医薬品は、開発費用の回収、新しい薬を開発する

る資金源として、ある程度高い薬価が決められます。さらに、先発医薬品は、製造や使用方法などが他の製薬メーカーに真似されない様、いくつかの特許により保護されています。

しかしながら、特許には存続期限があるため、特許権が満了すると、他の製薬メーカー（後発医薬品メーカー）でも、ある程度先発医薬品との同等性試験を行い国の許可を得れば、先発医薬品と同じ成分の医薬品を後発医薬品として発売できる様になります。もちろん、開発費用などは、先発医薬品に比べ各段と安くなり、当然、薬価も安くなります。薬価が安い後発医薬品を処方すると、患者さんにとつては、病院や薬局で支払う薬剤の値段が安くなり、個人負担が軽減します。また、薬剤費の総額も下がりますので医療費も抑制できるといえます。この様な制度の中で、現在では、1つの先発医薬品に対して、50ぐらいの後発医薬品が発売されているものもあります。

ならず、後発医薬品の普及は、あまり進んでいません。普及を妨げる理由には、後発医薬品メーカーの情報提供力不足や、医師、薬剤師らが、先発医薬品との比較対照試験が不十分であるとの不安感を持っていることなどが要因としてあげられています。

一方で、後発医薬品には、安価というだけでなく、先発医薬品にない付加価値がある場合があります。先発医薬品が、湿気や温度、あるいは光に弱く、保存に気を付けなくてはいけないものでも、後発医薬品の中には、それらを改善したものもあります。また、飲みにくい薬の味が改善されていることもあります。小児や老人が飲みやすい形の医薬品を開発することで、よりよく薬を飲んでもらえるように努力しているメーカーもあります。今後、さらに、後発医薬品メーカーは、薬剤情報の提供、副作用情報の収集、品質管理、安定供給、メーカーの責任の明確化など、医師や薬剤師から信頼を得られるだけの情報を提供しなければなりません。患者さんや国民の安全性

の確保のために後発医薬品の承認審査だけではなく、発売されている後発医薬品の品質チェックにも、より厳しく目を光らせる必要があるでしょう。

私たちは、患者さんがより安価で、安全な医療が受けられるよう努力を致しております。後発医薬品に関する患者さんへの十分な説明も、医師、薬剤師の責務であります。後発医薬品に関するご関心、ご疑問などがございましたら、ぜひ、病院あるいは調剤薬局に相談されることをお勧めいたします。

【著者プロフィール】
高知大学医学部附属病院
薬剤部 教授・薬剤部長

宮村 充彦



細字実用書道教室
生徒募集

黒潮町教育委員会では、書道教室を開催します。

つきましては、生徒を募集しますので参加を希望される方はお申し込みください。

〈日程〉

11月～翌年3月
月2回(隔週土曜日予定)
午後2時～4時

※10月末頃に準備会を開催します。参加者には後日「日程表」を配布します。

〈場所〉

大方あかつき館 2階会議室
(黒潮町入野6931-3)

〈講師〉

大方墨の会 國見惺さん

〈定員〉

25名(※定員になり次第締め切りとさせていただきます。)

〈参加料〉

無料(※ただし、準備物については、参加者負担)

〈募集締切〉

10月21日(木)

○お問い合わせ・お申し込み
大方あかつき館内文化振興係(☎43-2110)
へご連絡ください。